

竜赫使いの少年とDJ少女

佐介

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これはある特殊な赫子を持った少年と色々なDJユニットの出会いである。

作者受験により更新停止

作者は、モンハンにわかです（ハンターランク3）

東京喰種も久しく見てないので喋り方を忘れてます

D4DJのモンハンコラボ見て書きたくなりました

めちやくちや投稿遅くなると思います。

ミス等ありましたらご指摘お願いします（「」）

一部東京喰種原作で死亡したキャラを生存させています

死んでなかったらストーリー的におかしくない？て感じるかもしれません。気がし
ないでください

目次

設定

設定 1 | 1

設定 2 | 5

出会い

竜赫少年DJ少女と出会う1 | 9

竜赫少年DJ少女と出会う2 | 13

竜赫少年DJ少女と出会う3 | 17

竜赫少年ライブに出る?! | 22

竜赫少年と打ち上げ | 30

竜赫少年交流を広げる | 42

竜赫少年みんなを守る | 54

竜赫少年本領発揮 | 63

設定

設定 1

初めまして佐助と言います今まで読み専でしたが色々と話が膨らんできたので小説書いてみたいと思います(???)?よっ

本編いつかけるか分からないですけどとりあえず設定だけ書いときます
(受験生なんで) まあ気長に待つてください

見てくれる人がいるか分からないけど(ボ

ソツ:

○は、作者の心の声です

主人公

名前：金木狐介 半喰種

身長：178cm

所属高校：陽葉学園1年

クラス：山手響子 清水絵空 出雲咲姫と一緒に(何組か分からないので)

趣味 料理、ギター、DJ、作曲

好きな食べ物：クッキー ドーナツ コーヒー

嫌いな食べ物：シソ 魚

得意科目：美術 英語以外

苦手科目：美術、英語

誕生日：5月10日

特徴：白髪で肩あたりまで髪を伸ばしている R c細胞の量が桁違い（10万ぐらい）

赫子：鱗赫 竜赫（説明は下の方でします。）

詳細設定

本編東京喰種金木研と霧島董香の息子、姉に金木一花を持つ

T S C特別捜査官として陽葉高校に転校する。

R c細胞の量が多く半喰種だが人の食べ物を食べられなかったが5歳の頃ある事件でR c細胞の制御ができるようになり食べれるようになった。

戦闘力は、13歳の時月山習と互角に戦い15の時父金木研と模擬戦で引き分けとなった（竜赫使用）なので作者の中ではS S Sレート並の強さを持っていると考えています。

戦い方は、鱗赫で攻めて攻めて攻めまくりの超スピードタイプたまに母から習った羽

赫のような戦い方をする。(作中でこの戦い方最初の方しか出ないかもんなら出ないかも)が、基本的には、竜赫で戦う。(1段階進化した後)

↳ 竜赫について

竜赫とは、簡単に言うとモンハンの竜(作中では赫獣と呼びます)の体の一部を赫子として戦います。竜赫は、世界に数百人と大分少ないです何故ならある特殊な条件を踏まないと発生しませんその条件は、竜によって違うので主人公の竜赫の発生条件は、一体なんなのでしょう(しつかり書くから安心して)ちなみに主人公の竜赫は、タマミツネの尻尾です5歳の頃に覚醒しました。竜赫は、進化する赫子なのでどう進化するか考えてみてください。

(進化は、ランクで示します覚醒した状態がランク0でここから進化していきます。)

↳ 竜赫の弱点

・ 消耗が激しく長時間使用できない。しかし上にも書いた通り進化する赫子なので進化すればするほど長時間使える。

・ 進化した後には暴走の危険

↳ 竜赫の強さ

竜赫は、基本的に自身の覚醒した竜によって変わる。

主人公の竜赫の強さは特徴にも書いた通りRc細胞の数値が馬鹿みたいに高いので

めちやくちや強いです（使用時間も長い）

初っ端から

情報量多くてすみません m（―――） m 設定 2 も書きます（世界設定とかメインヒロインとか）言うのが遅いかもしれないけどこれは

D4DJ×東京喰種×モンスターハンターのクロスオーバー作品です所々原作と違う部分が多いと思いますが（特にモンハンとか）どうかお許しください。それでは設定 2 で会いましょうさようなら（ゞ（・D・。）フリフリ

ご指摘がありましたら遠慮なくお願い致します

設定 2

○は、作者の心の声です

く世界設定く

陽葉学園のある地区を中心に謎の生命体が出現（モンハンのモンスターです）更にはその謎の生命体の特徴を持った赫子を持った喰種も出現TSCは、これを赫獣と竜赫と名づけ調査として主人公、月山習、米林才子を派遣した：（月山さんと米林は、勝手に着いてきた）

くヒロインく

ヒロイン候補1

愛本 りんく

設定は、公式ホームページを見てください。

く詳細設定く

5歳の時主人公と出会い主人公と同タイミング（6歳）で引越す。

主人公とハピアラが大好き

ヒロイン候補2

山手 響子

設定は、ホームページを見てください。

主人公が転校した時のお隣さん学校や街を紹介している時に色々な事件が起き主人公に引かれる

ヒロイン候補3

出雲 咲姫

設定は、ホームページを見てください。

主人公の奏でるギターに不思議な色を見て着いてくるようになる

くオリキカラ

今後ストーリーで出てくるキャラクターです

敵か味方か予想してみてください

赤原 リオ 喰種

性別：男

身長：182cm

赫子：羽赫 竜赫（なんのモンスターか予想してみてくださいヒント名前）

緑丘 レイ 喰種

性別：女

身長：170cm

赫子：尾赫 竜赫（なんのモンスターか予想してみてくださいヒント名前）

このキャラクターたちが出てくるのは、だいぶ先になるかもしれないですが覚えておいてください設定は、後々増えていきます。

く補足く

上記のりんくの詳細設定で5歳の時出会うと書いていますが設定としては、主人公が5歳の頃父金木研の仕事の関係上1年だけその地方に滞在していました。

ここからは、文字数が必要なので色々書いていきます。

竜赫の覚醒条件・感情 自分の思い 叶えたい夢 が関係します。

現状のTSC・新たな敵にてんやわんや竜遺児については一段落している

一緒に行動するQs・米林才子が「ママンのお子さんに無茶させれんわ。」と言っている
てきた元々は主人公の単独任務。

金木一花・めちやくちやブラコン主人公大好きで年の差は4歳で大学2年生 大学は、燐舞曲 Mermaidと同じ大学三宅葵衣のファンでよく青柳椿とバチバチして姉繋がりで主人公とも仲がいい。

主人公の暮らす家・姉のマンションの隣で月山習と米林才子と暮らすしかしよつちゆう姉が来るので実質4人暮らしと行っても過言ではない。

く主人公の追加設定く

ボカロP・追加理由の方がD4DJキャラと絡ませやすいから。
作成曲・ナユタン星人様の曲を持ち曲とさせていただきます。

追加情報が増えればどんどん書いていきます。

見ずらかつたらすいませんm (| |) m

出会い

竜赫少年DJ少女と出会う1

??? 「私くくくって言うの君は？」

狐介 「狐介」

??? 「仲良くしよ！」

狐介 「うん！」

今思えばこの出会いがなかったら今の僕は、いなかったのかもしれない。

??? 「助けてー!!!」

狐介 「???ー！」

今思えば彼女との出会いがなければこの狐の力に目覚めることもなかったのか。

く 汝なんのためにこの力を使う

か

狐介 「もちろん人を守るためだ!!」

く 面白いこの絶望的な場面になっても人のために力を使うとな

狐介 「当たり前だろ！大切な人なんだ!!」

「そうか……しかし我の力は、善にも悪にも転ぶそれでも良いか？」

狐介「守れるならなんでもいい!!!」

「それは面白いならばこの力存分に使うがいい」

今ではこの選択肢が正しかったのかは分からないけどこの時は、こうするしかなかったんだよな。

確か少女の名前は、あじりじりじり

狐介「フワアア……もう朝かよ、**んん!**懐かしい夢を見た気がするな。」

狐介『ここに来るのも10年ぶりか』

コンコン

月山「朝ごはんできてるからね」

狐介「はい」

少年

移動中

米林「おはよう」

狐介「おはよう才姉」

月山「今日から新しい高校だね実にマーベラスな日だよ!!!」

狐介、米林「朝からうるさい!」

さい」

日野宮「それはすまなかつたそれじゃあさつそく教室に入るか」

狐介「はい」

『楽しみだな(。(。)>(ε<。)o)』

この時僕は気づかなかつたこの教室での出会いが僕の予想していたものとは、
変わることは、……、
。

竜赫少年DJ少女と出会う2

〈教室内〉

絵空「ねえねえ響子今日転校生が来るらしいわよ」

響子「へーそうなんだ男の子 女の子？」

絵空「そこまではちよつと分からないわね」

響子「まあすぐ分かっていいか。そういえば今日のライブなんだけど」

絵空「なにになに」

〈教室前〉

日野宮「ここが今日から君が入る1年A組のクラスだ。」

狐介「はい」キーンコーンカーンコーン

日野宮「よし入るぞ」ガラガラ

日野宮「みんなおはよう」

モブ「先生く転校生が来るって本当ですか？」

日野宮「ああそうだ入っていいぞ」

狐介「はい」

え？髪白い　ちよつとかつこよくない？　身長デカイな　髪白い

かつこいい　髪長げー　かつこいいなクソが！パンパン日野宮「はい静かに」

狐介『半分髪のコメントじゃねーか』

日野宮「自己紹介お願いね」

狐介「はい、金木狐介（かねぎ　こすけ）と言いますよろしくお願いします趣味は、料理とギターとDJで作曲とかもします。好きな食べ物は、ドーナツとクッキーです」

日野宮「みんな狐介君に質問とかある？」

響子「じー（？ー？）」

狐介「？『めつちや見てくるんだけどてかあの人ピキピキの響子さんだよねとりあえず笑い返すか』ニコ」

響子「？（／／□／／）／」

狐介「！『なんであの人顔真っ赤になってんの!!!こつちまで恥ずかしいじゃねーかよ』
／／／」

絵空「ニヤリはあゝい先生」

日野宮「じゃあ絵空」

絵空「狐介君って彼女いますか？」

狐介「いませんよいたことありません」

えーあんなにかっこいいのに　なんでだろー（女子）ガヤガヤ

なんで絵空様がそんなことを!?　チヨーシ乗りやがって（男子）

狐介『なんだよ絵空様って? w…:あ、ピキピキの清水絵空だあの人やつぱ人気あるんだなあ』

絵空「じゃあ作曲が趣味って言っていましたけどYou O u b eなどに投稿とかしてますか?」

狐介「してますよ、でも恥ずかしいので曲名は、秘密です」

どうせ駄作なんだからクスクス　絶対見つけ出してやる（男子）

狐介『さつきから男子の当たり強くない?』

絵空「いつか絶対聞かしてくださいね?」

狐介「機会があれば」

キーンコーンカーンコーン

日野宮「お、チャイム鳴ったなそれじゃー狐介は、右端の響子の隣に座ってくれ」

響子「（・皿・）」

狐介「わかりました」

狐介「よろしくね響子さん」

響子「よ、よろしくね狐介君」

狐介『なーんでこの人こんなにテンパってんだよ可愛すぎだろ勘違いしちゃうだろやめろよ照れるだろ動画で見た時もっとクールだったろ女が惚れる女みたいな感じだったろなにこれこれがギャップ萌えってやつなのかそんなのか』脳内オーバーヒート中
絵空「ニヤニヤ『やつぱり響子一目惚れしたなくいやー意外だなく狐介君も最初から名前呼びつて攻めてるし平然装ってるけどちよつと戸惑ってるわよね可愛い』」

日野宮「あ、そうだ響子狐介学校案内してやれよ」

響子「え!?!は、はい!!」

日野宮「大丈夫か?」

響子「だ、大丈夫です」

日野宮「そうかじゃあ授業始めるぞ」

狐介「よろしくね響子さん」

響子「響子でいいよよろしくね狐介君」

狐介『あれ?動画で見た通りクールな感じに戻ってるやつぱ勘違いだったのかまあそりやそうかちよつと恥ずかしいじゃねえかおい』

絵空『あれ絶対にキャパオーバーしちゃったわね』

竜赫少年DJ少女と出会う3

響子

『あの男の子を見てからドキドキが止まらないなんでだろう?』

昼休み

狐介『やっぱり転校初日の質問攻めは、キツイなー転校するの初めてだけど?w』

絵空「ねえねえ金木君一緒にお昼食べない?響子もいいわよね?」

響子「エ!いい、いいよ／＼」

絵空『赤くなっちゃって可愛いんだから』

狐介『また赤くなってる』

狐介「良いですよ誘ってくれてありがとうございます」

絵空「全然いいのよそれより同級生なんだからタメ口でいいわよ」

狐介「あ そう?じゃあタメ口でこれからよろしくね絵空、響子もこれでいい?」

絵空「ええよろしくね狐介君／＼」『え?!いきなり呼び捨て?ちよつとドキツとし

ちよつたじゃない』

響子「もちろん／＼」『なんでこんなに顔熱いんだろ』

狐介『あれ今回は、絵空も顔赤くなってるなんで?』

少年、少女移動中

カフエエリア

??「響子絵空遅ーい」

?「あれその人誰?」

由香「もしかして転校生? 私笹子 ジェニファー 由香ナイスチューミーチュー」

しのぶ「私は、犬寄 しのぶよろしくね」

狐介「金木狐介ですよろしくね由香 しのぶ」

由香「／／／」『呼び捨て? でもいいかも体つきもしっかりしてるし今度ジム誘お』

しのぶ「／／／」『こういうのって段階踏んでから呼び捨てって感じじゃなかったっけ?』

狐介『あれ? また顔赤くなってるそういえば月山さんが「普通女の子は、親しくなつてから名前前で呼ぶんだよ君のその大胆さもまたいいけどね?」て言つてたようなまあいいか?』

狐介「タメ口嫌だった? 響子と絵空がいいって言うから君たちもそうなのかなって思っちゃつてごめんね」

由香「全然そんなことないよむしろ堅苦しいより全然いいから」

しのぶ「そんなことより早くご飯食べよ」

絵空「そんなことって」

由香「絵空？響子さっきから顔赤いけどなんかあったの？」ボソツ

絵空「多分響子一目惚れしたのよ朝からずつとそうでキャパオーバーでロボットみたいになっちゃった時もあるんだから」ボソツ

しのぶ「え!?本当に」ボソツ

響子「由香たち何話してるの？」

由香「な、なんでもないよツルつあ！コーヒー!!!」パシツ

狐介「大丈夫？はい ニコ」

由香「あ、ありがとう」『何その笑顔反則でしょ／／』

しのぶ「お前どんな反射神経してるんだよ」

狐介「いやーそれほども」

絵空「そうだ狐介君今日のライブ来ない？」

響子「いいね音楽やってるらしいしアドバイスとかあると嬉しいし」

しのぶ「確かに最近アドバイスある？て聞くけど全部良かったですとしか言ってくれないしな」

狐介「いいことが言えるか分からないけど楽しみにしとくね」ブーブー

狐介「ちよつとごめん」

少年移動中

狐介「何月山さん」

月山【君の元の携帯治ったよ】

狐介「まじでやったー（（○*。▽。*）○））」

月山【今そっちに向かっているとと思うから】

狐介「え？」

???'「マスター」

狐介「その声は!!」

ロトム「戻って来たロトー」

狐介「ロトム!!!」

【ロトム】

ポケモンのスマホロトムと一緒にです。

唯一の友好的な赫獣狐介に助けられてから一緒に行動していたが画面が割れたので修理に出された。

狐介「よしじゃあ戻るか」

少年移動中

響子「やめてよ!!!」
狐介「なんだ？」

竜赫少年ライブに出る?!

響子「やめて！」

狐介「どうした？」

「数分前」

絵空「響子狐介君のことどう思う？」

響子「え?!いきなりどうしたの?／＼／＼」

絵空「いや、響子の狐介君を見る目が恋する乙女って感じだったからどうなのかなって」

由香「確かに狐介と話す時すごい顔赤くなってたもんね」

響子「私自身もよく分からないって言うか狐介君を一目見たときからすごくドキドキして話す時の仕草とか雰囲気はすごくかっこいいなって」

しのぶ「ベタ惚れじゃん」

絵空「やっぱり響子一目惚れしたのよ」

響子「そうなのかな？」

???「響子!!!」

響子「ビクッ??」

???「何俺以外の男の話なんかしてるんだよ」

しのぶ「またこいつかよ」

響子「斉藤先輩何度も断ったはずですよ」

キャラ紹介

斉藤 空希

絵空程ではないがお金持ちテンプレ屑男

斉藤「なんだと！俺が俺が付き合えって言ってるんだぞこっちに来い!!!」ガシッ

響子「やめて！」

狐介「何やってんだよ」ガシッ

斉藤「Σ(。Д。)ヒッ」ゾクゾクゾクミ(ノ——)ノ||3ドテツ(尻もち着きまし

た)

斉藤「な、なんだお前」ガタガタガタ

狐介「響子に何やってんだよ」

斉藤「な、何ってるせーな俺の勝手だろ」

狐介「何やってつか聞いてんだよ」(殺気マシマシ)

斉藤「知るか!!!」(。Д。)「」

狐介「大丈夫か響子」

由香「強く掴まれてたけど大丈夫？」

響子「う、うん大丈夫／＼／」

狐介「さつきから気になってたけど響子顔赤いけど大丈夫か？」ぴと

絵空『あら大胆』

響子「だ、大丈夫だから!!」

狐介「それならいいんだけど」

しのぶ「狐介かつこよかったぞ」

狐介「いや／＼それほどでも、でも響子に何も無くて良かったよ」なでなで

響子「／＼／」超顔真っ赤

狐介「あつ嫌だった？」

響子「そんなことないよアセアセただちよつと恥ずかしかったから」

周りの目線（●??●??）

狐介「ご、ごめん」

絵空「ふふっいい人に惚れたわね」

由香「絵空は何目線なのさヤレヤレ」

しのぶ『いいなー,,,,,,,て何考えてるの私!』

キーンコーンカーンコーン

しのぶ「それじゃ後でね」

由香、絵空、響子、狐介「またあとで」

少年少女授業中

斉藤「なんだよあの男話題の転校生か？」

斉藤「ア、ア、むしゃくしやる」

斉藤「ん？ピキピキライブA会場……うひひひひひひひ」

少年少女移動中

狐介「へー控え室デカイね」

絵空「なんでここまで来てるのよ」

狐介「響子が離してくれない」

響子「ギョッ」

絵空「響子急に大胆になったわね」

響子「だって怖いんだもん」

由香「大分キャラ変わったね」

絵空「これは誰かに責任持ってもらわないとねチラチラ」

狐介「大丈夫だよ響子のごとは、絶対守るから」

由香「どういうこと？」

狐介「あいつ斉藤だっけ？あいつまた何かやってくるよ」

しのぶ「さすがにライブになにかするのはきついと思うけど」

狐介「いやああいうタイプのやつは、なにしでかすか分からないから用心するに越したことはない」

響子「よしじゃあライブ始めるよ」

しのぶ、由香、絵空「おー!!!」

狐介「頑張って来いよ」

くライブ準備中く

響子「どうもPeak y P e a k y さっそく行くよ電乱★カウントダウン」

狐介「凄いなプロって言っても遜色ないぞ」

くライブ終盤く

響子「それでは最後に聞いてください最ブツ」暗転

観客なに？ 急に暗くなった 音止まったよ

狐介「あいつやりやがったな！」

く少年移動中く

響子「どうする」

絵空「15分で直せるって言ってたけどそれまでの時間何すれば」

狐介「俺に任せろ」

由香「狐介君!」

しのぶ「俺に任せろってどういうこと?」

狐介「まえに言ったら俺曲作れるって」

しのぶ「でも今は、主電源のコードが切れてるのでできるできないじゃなくて曲が流せないの!!」

響子「しのぶ落ち着いて」

しのぶ「でも」

狐介「大丈夫ロトム」

ロトム「はいロト」

しのぶ「何そいつ」

狐介「こいつならスピーカーカー台動かすくらいの電気は作れる」

ロトム「任せろロト」

狐介「だから俺が直るまで時間を稼ぐなに絶対に会場の熱は、下げさせねーから安心しろ」

響子「わかった期待してるからね」

狐介「おうよ」

ロトム「でも今仮面ないから顔バレちゃう口ト」

狐介「大丈夫真っ暗だからバレねーよ」

ロトム（insピーカー）「よし行く口ト!!!」

妖狐（狐介）「皆さんこんには妖狐です」

観客 本物？ 声一緒だよ！ まじで本物 きゃー妖狐様！

しのぶ「妖狐ってまじかよ」

絵空「めちやくちや有名じゃない」

響子「何が聞かれて恥ずかしいなのよめちやくちやすごいじゃない」

由香「ちよつとこれは、想定外ね」

妖狐（狐介）「それでは電気が戻るまで楽しんで行つてくださいエイリアンエイリア

ン」

???「すごい」

???「どうしたの？ 咲姫ちゃん」

咲姫「彼の音虹色なの」

衣舞紀「虹色!?!」

妖狐（狐介）「まだまだ行けるだろー!!! 次の曲だ太陽系デスコ」

咲姫「真つ赤な太陽みたいこんなに濃い色見たことない」
衣舞紀「何者なの妖狐って」

妖狐（狐介）「お、直ったみたいだねそれじゃまたねー」

観客バイバイ（ゞ・ヰ・。）フリフリ

咲姫「また会いたいな」

響子「ごめんねみんなそれでは真正銘最後の曲になります最頂点Peak&am
P;Peak!!」

くライブ終了く

竜赫少年と打ち上げ

く控え室く

響子「狐介今日は、ありがとう」

狐介「いや別に俺も久しぶりにステージに立てて楽しかったから」

絵空「でもまさか狐介君がああ妖狐だなんて想像しなかったわ」

しのぶ「なんで隠してたんだよ」

狐介「うーんなんとなく？」

しのぶ「なんとなくって」

由香「この恩は、絶対に返すからね」

狐介「別にいいのに」

絵空「こういうのは、素直に受け取るものよ」グイ

狐介「わ、わかったよ」『近い』

響子「むうー」

しのぶ『響子のキャラ崩壊が凄いな』

絵空『響子ったら可愛いんだから』

狐介「どうした響子そんな頬膨らまして怒ってんのか？」

響子「なんでもない」

狐介「ほんとかー」

響子(☒^☒)プイッ

由香「そこイチャイチャしないのさっさと打ち上げ行くよ」

狐介「イチャイチャしてるつもりはなかったんだけどな」

響子「べ、別にイチャイチャなんてしてないよ」／／ガチャ

日野宮「山手いるか？」

響子「先生急にどうしたんですか？」

しのぶ『切り替えはや!!!』

日野宮「このライブに妖狐が出たって本当か？」

響子「はい」

日野宮「もし妖狐と連絡が取れるなら陽葉祭のサンセットステージに出て欲しいとオ

ファー取つといてくれ」

響子「良いですよ」

日野宮「ありがとな今日は災難だったけどお疲れ様」

響子「さようなら先生」ガチャ

バタン

狐介「何勝手に返事しちゃってくれるの?!」

絵空「まだ決まったわけじゃないんだからそうカッカしない」

狐介「え」

響子「ふっふ」ニヤリッ

狐介「やっぱ怒ってんだろ!？」

少年少女移動中

WACC (ワック)

しのぶ「またハンバーガー？」

響子「嫌だった？」

しのぶ「別に／＼」

由香「そういえば響子狐介と話しても赤面しなくなっただね」

(狐介は、注物品を受け取るために並んでいます)

響子「あ、確かになんですだろう」

絵空「単純に慣れたんじゃない？」

由香「そんな簡単に慣れるもんなのかな？」

しのぶ「でも結構距離近かったしあんなイチャイチャしてたんだから有り得るだろ」

絵空「そうよ私がちよっと近づいただけであんなに頬膨らまして」

響子「だって」

しのぶ「本当にクールな響子はどこいったんだよ」はあく

狐介「商品これで良かったよね？」

響し絵由「ビクッ」

由香「ちよ、びつくりさせないでよ」

狐介「え？」

しのぶ「なんでそんなに持ってんのにそんな静かに歩けるんだよ！」

狐介「そんな事言われても」

響子「とにかく今は食べよ」

絵空「本当にハンバーガー好きね」

響子「美味しい」モグモグ

狐介「可愛い」ボソッ

響子「え？」／／／

狐介「あ、声出てた？」

絵空「もう完全に聞こえてたわ」

狐介「恥ずず!!!」／／／

しのぶ「そういえばサンセットステージどうするの」

狐介「え？あ、ああサンセットステージね出るよ」

由香「でも顔どうするの？」

狐介「俺の叔父の友達が仮面作るのが得意だからその人に作ってもらおう」

絵空「へー仮面ねえ」

響子「いいじゃん」

しのぶ「なんか喰種みたいだな」

狐介「ビクッ!!!」

由香「ちよっどしのぶ」

しのぶ「ああ悪い！そんな変な意味は、ないんだ」

狐介「そんな慌てないで大丈夫だって気にしてないから」

しのぶ「ほんとにか？」

狐介「だ、大丈夫だってだからそんな不安そうな顔しない」ナデナデ

しのぶ「カア／＼／＼『気持ちいいでも恥ずい』」

響子「頭撫でる必要くない？」ジトゝ

狐介「あ、悪い癖で」パッ

しのぶ「あ」(・ω・)

狐介『なんでそんな残念そうな顔するの?!』

絵空『あらあ？しのぶもデレちやった？』

由香『凄い狐介君一日で2人も』

響子「癖ってどういうこと？」

狐介「いやあ姉ちゃんによく頭撫でてって言われるから」

響子「ふーん」

狐介『イマドキ女子ってそんなに頭撫でられたいの!?少女漫画の見すぎでわ?ここはとりあえず』

狐介「なんかごめんな気分悪くさせちゃって」ナデナデ

響子「え?カア///」

狐介「これで許してくれるか?」ニコ

響子「ガバツ」

狐介「え?」

狐介『今起こったことを説明しよう今俺の胸の中には、今をときめく現役JKの山手響子さんが抱きついてきていますしかもめちやくちやスーハー言ってます今この状況を瞬時に判断できる人はそう居ないでしょう私もここまで落ち着いた思考をするのに30秒かかりましたもうびつくりですとりあえずこのままでもいいよ』

狐介「(、?)」

しのぶ「狐介えー！ー！」

絵空「ちよつと息してないよ！」

由香「ちよと響子そろそろ離れて」

響子「（*、ハ、）スーハースーハー」

由香「ダメだ響子が壊れてるどうしようこんな響子見たことない絶対現役JKがしていい顔してないよフアンの子達見てたら泣くよ!!!」

（数分後）

響子「お見苦しい姿を見せてすみません」 i l — — l i （つω — —、。） i l — —

l i

狐介「大丈夫だよ全然気にしてないから」鼻血フキフキ

絵空「急にどうしたの？」

響子「分からないけど急に抱きつきたくなくなって」

しのぶ「なんでだよ!!!」

響子「ビクッ」

由香「まあまあしのぶ落ち着いて」

狐介「とりあえずこの話はここまで明日も学校あるんだし解散ってことで」

響子「その前に連絡先交換しない？」

狐介「いいよはい」

少年少女帰宅中

狐介「ただいまあれ誰もいないの？」

狐介「ん？」ペラッ

月山

ちよつと用事が出来たらか米林君と少し出かけてくるよ

狐介「なんかあだたんかな？まああの二人なら大丈夫でしょう」ピコン

狐介「ん？絵空からだ」

絵空

ねえねえ狐介君響子のことどう

思う？

狐介

可愛いと思いますよ

絵空

そうじゃなくて恋愛対象としてどう思う？

狐介

まだ1日しか話したことないから分からないけど

あの人と付き合える人は凄く羨ましいです

絵空

じゃあ響子の今日一日の態度どんな感じだった？

狐介

最初の方はすごく顔赤くしてどうしたんだろうと思ったけど話していくうちに恥ずかしがってるんだなって感じました

絵空

私から言うことではないんだけどさ

その反応とさっきのお店での反応でなんとなく

察しない？

狐介

ええなんとなくは

でもなんでなのでしょう

絵空

一目惚れってそういうものよ

狐介

そうなんです

明日からどう接しよう

絵空

いつも通りでいいと思うわ

狐介

いつも通りって言っても今日あったばかりですけどね

絵空

ほんとねなんか初めてあった気がしないわ

狐介

ほんとですわ

そういえばHappy何とかっていうユニットの人達の名前って分かります？

絵空

あらあ私という女と話しておきながら他の女の話？

狐介

すみません

絵空

嘘よそれでなんで気になったの？

狐介

「多分この真ん中の金髪の子と兎耳の子多分5・6歳の頃に1年間だけ一緒に遊んでた子達に似てるんですよ」

絵空

りんくちゃんとむにちゃんね

狐介

やっぱりそうだ

絵空

いきなり幼なじみなんて手強いカードが来たわね

狐介

りんくとむにはそういう関係じゃないですよ

どちらかと言うと俺が兄みたいな感じですよ

絵空

そうなのね

狐介

俺の人生を変えてくれた人達ですよ

絵空

ふふっそうなのね

竜赫少年交流を広げる

（自宅）

狐介「フアゝゝゝ、朝かうたさんにマスク作ってもらおう連絡入れないと」

有馬「おはよう」

狐介「おはようございます」

・
・
・

狐介「なんているのぉー！！！！」

有馬「米林に頼まれた」

狐介「あいつ大先輩に何頼んでんの！」

有馬「とりあえず大丈夫そうだなそれじゃ」

狐介「もう帰るんですね」

有馬「ああ金木くんを手伝わないと行けないからな」

狐介「父さん元気ですか？」

有馬「元気だぞ心配するなそれと金木くんから忠告だ」

狐介「なんですか」

有馬「何があっても赫者になるなよ」

狐介「わかってますよ」

有馬「そうかなら大丈夫そうだなそれではまた今度」

狐介「今度は、ご飯ぐらい食べていってくださいね」

有馬「そうするよ」ガチャ

バタン

狐介「とりあえず着替えるか」

ガチャ

狐介「忘れ物ですか？」

一花「狐介えー！ー！」ダキッ

狐介「朝っぱらからなんだよ姉貴！」

一花「会いたかっただけ」

狐介「そうかいじゃあ帰れ」

一花「冷たいこと言うなよ」

狐介『読者のみんなこいつは、俺の姉金木一花だ確か今は、大学2年生でDJユニツト2グループと仲良くやっているらしい仲良くなった理由？今後わかるよ』

一花「もう時間じゃん！それじゃまたねー」バタン

狐介「本当に会いに来ただけだったよあいつ……；；；；あ連絡入れないと」

狐介

ウタさん今大丈夫ですか？

ウタ

大丈夫だよ

狐介『返信はやΣ(。Д。 ー ー ー)』

ウタ

どうしたの？

狐介

仮面作って欲しいんですけど

ウタ

もう作ってあるよ

狐介

え？

ウタ

去年誕生日プレゼントように作ったやつがある

狐介

そうなんです

ウタ

今日暇だし学校に持っていくね

狐介

悪いですよ

ウタ

いやちよつとそつち方面に用事があるんでね

狐介

今日暇だつて言つたじゃないですか

ウタ

気にしないでいいの

狐介

ちよつと

狐介「既読つかなくなつた」

はあくとりあえず行くか

少年登校中

狐介「ふんふんふーん」（エイリアンエイリアン）

咲姫「あの色」

ノア「咲姫ちゃんどうしたの？」

咲姫「あの白髪の人の音前に見た虹色の人と同じ」

ノア「え？あのピキピキのライブに出た人ってこと？」

咲姫「うん私が今まで見た中で一番綺麗で宇宙みたいな色をしている人」ウツトリ

ノア「何咲姫ちゃんのウツトリ顔可愛すぎるんですけど何私今日死ぬの死んじゃう

のおー!!!」

狐介「何あの2人？」

く教室く

狐介「おはよう」

響子「おはよう狐介」

絵空「おはよう狐介君」

男子達（、、、、）チツなんで転校してきたやつが急に仲良くなってんだよ

絵空「狐介君人気者ね」ニヤニヤ

響子「煽らないでよ絵空」

絵空「やつぱり狐介に抱きついた人は冷静ね」

響子「ちよやめてよ!!!」／／／

男子達 ha?、、、、、、

はあー

!!!!!!!

絵空ファンナンバー1桁の男 いやそんなわけないだろみんな落ち着けあの絵空様
だぞいつも通りのおふざけだ

男子達 た、確かに

絵空 「写真あるわよー」

男子達 「「「狐介コロス」」」

狐介 「えちよまー」

男子達 「「「「ウオー」」」」

絵空 「頑張つてね」

狐介 「何やってくれてんじや!!!」 ダツ

男子達 「「「「待て狐介、えー」」」」

男子達 「「「「待って」」」

男子達 「「「「?」」」

狐介 『あれ朝見た子だ同じクラスだったんだ』

響子 「どうしたの? 咲姫」

咲姫 「狐介君」

狐介 「え? 何」

(つゝ・ω・) つギユッ

教室内生徒え？

狐介「(。D。)」

咲姫「あなたの事をずっと探していました」ギュー

響子「咲姫何してるの？」ハイライトoff

咲姫「相手に気持ちを伝えるにはこれがいちばん簡単だってノアが言ってた」(ノアの嘘です)

響子「そうなの」コツコツコツコツ

ギユツ

狐介「何してるの2人とも!!!」

響子 咲姫「ギュー」

男子達「(((((((。ω。)))))」

絵空「男子達が死んだΣ (☒?☒) !?というか2人ともとってもラブリーだけど離れて」

響子 咲姫「なんで」

絵空「響子もその反応!？」

絵空「とりあえず離れてあげて狐介大変なことになってるから」

狐介「(。?、。)」

響子 咲姫「大丈夫!？」

日野宮「ホームルーム始めるぞーってみんなどうした？」

「1時間目終了」

絵空「それで咲姫ちゃんなんで急に狐介に抱きついたの？というか響子なんで狐介君の腕に抱きついてるの？」

響子「落ち着くからあといい匂いだし」

狐介「俺の心臓持たないからやめて欲しいんですけど」

響子「やだ」

狐介「はあくそれで咲姫ちゃんだっけ？どうして急に抱きついてきたの」

絵空『相変わらず初っ端から呼び捨てなのねって名字知らないから当然か』

咲姫「昨日ライブに出たでしょ」

狐介「なんのことでしよう」ダラダラ

響子「そっか共感感か」

狐介「共感感？」

絵空「咲姫ちゃんは、音の色が見えるのよ」

狐介「まじで」

響子「でも狐介ライブ後にみんなの前で歌ってないから分からないんじゃないか」

咲姫「登校中鼻歌が聞こえてきて見てみたら同じ色だった」

絵空「何やってるの!？」

狐介「だってそんな能力持っていると思わんやん」

響子「ちなみにその事誰かに話した？」

咲姫「フォトンメイデンのみんなには」

狐介「フォトンメイデンってネビュラプロダクションの？」

咲姫「うん」

狐介「それなら遅かれ早かれバレたか」ボソツ

咲姫「？」

響子「でなんで抱きついたので？」

咲姫「狐介君の色に惚れたから」

響子 絵空 狐介 クラスメイト「フア？」

咲姫「あなたが好きです狐介君」ギユツ

響子「ダメ!!!」

バツ（響子に視線集まる）

響子「あ、えっと、その〜」

絵空「言っちゃいなさい響子」

響子「でも」

絵空「咲姫ちゃんに取られちゃうわよ」

響子「；、よし」

響子「狐介」

狐介「ハイっ」

咲姫「？」

響子「私も；、私も狐介のことが好きです！」／／／

クラスメイト「えー！ー！ー！ー！！！！」

響子「返事はいつでもいい咲姫もいいよね」

咲姫「はい」

響子 咲姫「よろしくね狐介（君）」

狐介「は、ハイっ」

絵空「ねえねえ咲姫ちゃん狐介君の色に惚れたって言うたけど何色だったの？」

響子「たしかに気になる」

咲姫「ものすごく綺麗な虹色で私がずっと求めていた色だった」

響子さんは、なんで好きになったんですか？

響子「一目惚れあとあの歌を聞いてもっと好きになった」

絵空「響子が照れてない!？」

響子「なんか吹っ切れちゃった」ギョツ

狐介「さも当然のように抱きつかないで」

咲姫「私も」ギョツ

絵空「両手に花ね」

狐介「めっちゃ恥ずかしい」

先生「おい授業始めるぞーって狐介何やってんだ!!! うらやまけしからん」

狐介『本音出とる』すみません、ほら離れて」

響子 咲姫「ブー」

狐介『可愛いなあ畜生』

絵空『本当2人ともとつてもラブリーよ』

く数分前の隣の教室く

??? 「ねえねえ??ちゃん昨日のピキピキのライブ見た?」

?? 「なんで私の教室に来てるのよ!」

??? 「いいじゃん別にそれでみた?」

?? 「見てないわよ」

??? 「えー」

?? 「わ、悪かったわね」

??? 「まあいいやこれみて」

?? 「これってていうかこの声」

??? 「狐兄（こうにい）“帰って来たんだよ!!!”

?? 「本当!!!」

??? 「昼休み早速会いに行こう」

?? 「あんたどこにいるかわかってるの？」

??? 「わかんなくても響子ちゃんに聞けばわかるんじゃない？」

?? 「確かに楽しみにしとくわ」

??? 「うーハッピーアラウンドー!!!」

?? 「うるさいわよ！」

竜赫少年みんなを守る

く昼休みく

乙和「この人が咲姫ちゃんの言って虹色の人？」

狐介「初めまして金木狐介と言いますあなた達は？」

乙和「私花巻乙和よろしくね」

衣舞紀「私は新島衣舞紀よろしく」

ノア「私福島ノアよろしくね金木君」

衣舞紀「それで聞きたいことがあるんだけど」

狐介「何？」

衣舞紀「なんで咲姫と響子ちゃんは金木君に抱きついてるの？」

咲姫 響子「好きだから」

衣舞紀 ノア 乙和「「えーーーーー!!!」」

絵空「やっぱり驚くわよね」

しのぶ「驚かない方がすごいよ」

由香「3人とも大丈夫？」

衣舞紀「大丈夫大丈夫ちよつとびっくりしちやつて」

乙和「教室で公開告白した噂って本当だったんだ」

ノア「私は咲姫ちゃんが好きなのはなんとなくわかってたけど響子ちゃんも好きなのはびっくりしたよ」

狐介「本当心臓飛び出そうだから離れて欲しいんだけどね」

絵空「贅沢な悩みね」

狐介「すみません」

響子「それでさ狐「響子ちゃん!!」りんくちゃん?」

りんく「前ピキピキのライブに出てた人知ってる?」

むに「ちよつとりんく早いつてて、; ; えー! 響子さんと咲姫ちゃんが男の人に抱きついでるー!!!」

りんく「ほんとだー!!! って狐兄?」

狐介「久しぶりりんくむに2人ともちよつと離れて」

りんく「ホントにほんとに狐兄?」

むに「嘘じゃないわよね!!!」

狐介「真正正銘お前らの狐兄だぞ」

りんく むに「会いたかったよ!!!」ギョッ

狐介「俺もあいたかったよ（涙）」

由香「3人ともどういう関係なの？」

狐介「幼なじみだよ」

りんく「そうなの私が引つ越す前に引つ越しちゃって」

むに「そうよ狐兄が引つ越してからすぐりんくも引つ越しちゃうんだからすぐく寂しかったんだからね」

狐介「ごめんな」なでなで

りんく むに「(≡▽≡)」

ノア「可愛い」

乙和「ノアの語彙力が死んだ」

咲姫 響子「むうー」

むに「そうだ狐兄響子さんと咲姫ちゃんとはどういう関係なの」

狐介「今朝告白された」

むに「告白?!」

絵空「りんくちゃんはいつまで抱きついてるつもり？」

りんく「飽きるまで」

狐介「絶対飽きないだろお前」

りんく「バレた?」(?????) エへへ

ノア「やばいりんくちゃんも可愛すぎるんですけど」鼻血ダバー

乙和「ちよつとノア?!」

衣舞紀「保健室行かないと!!!」

乙和「ちよつとノア保健室連れていくから」

衣舞紀「また今度ね金木君」

狐介「また今度」『大変そうだな』

しのぶ「とりあえずご飯食べようよ」

全員「賛成」

少年少女食事中

響子「へーりんくちゃんとむにちゃんは、最初から狐介の正体知ってたんだ」

りんく「そうなの」

むに「私たちの隠れた目標は、狐兄を越すことだからね」

狐介「それは楽しみだな」

絵空「なんか音しない?」

由香「音ならすると思うけど」

絵空「そうじゃなくてなんかガラスが割れるような」キヤーー

!!!!!!

狐介「なんだ？」

齋藤？「狐介えー！ー！！！」

狐介「みんな隠れて！」

狐介は机を倒して即席の盾を作りみんなを守った

キヤーー！！

狐介「何やってんだよ斉藤」

斉藤「コロスコロスコロスコロスコロスコロスコロスコロス」

そう言いながら斉藤は、尾赫を振り回し狐介に飛びかかってきた

狐介「ぐっ」『みんな見てるし赫子は、出せないどうしたら』

??「なんか大変なことになってるね」ガンッ

斉藤「グハッ」

狐介「ウタさん！」

ウタ「大丈夫？これ仮面生徒の避難は僕に任して」

狐介「ありがとうございますございますこれで少なくともみんな以外にはバレないか」『狐面か俺

の赫子にびったしだな』

響子「狐介大丈夫!？」

狐介「大丈夫だみんなは俺が守る」

全員「ドキッ」／／

しのぶ「でもどうやって相手は喰種だぞ」

狐介「安心しろカチャみんなには秘密にしてたけど俺喰種だから」

絵空「でも普通にご飯食べてたわよね」

狐介「細かい説明はこいつ倒してからでいいか？」

絵空「ええその代わりしっかり説明してね」

狐介「さてどうしたものか斉藤お前も喰種だったのか」

斉藤「コロスコロスコロス!!!」

狐介『あの赫子竜赫に似ているな』『まあいいあいつら怖がらせるってことはどうなる

かわかってんだろうな』

斉藤「ビクッ」後ずさり

狐介「行くぞ!!」

俺は右手を顔の左側に持っていき親指で人差し指を鳴らし9本の鱗赫を出した

しのぶ「9本!!」

狐介「オラ!!」

2本の鱗赫で斉藤を思いつきりぶん殴った

斉藤「グッ」

斉藤は、すかさず尾赫でガードするがすかさず狐介が残りの鱗赫で斉藤をフルボッコにする

これは勝負と言うにはあまりにも一方的過ぎるとしのぶは感じた

しのぶ『ネットとかで見ただけど実際はこんなにごいんだ』

そんなことを思っている内にもう勝負は着いていた

結果は狐介の圧勝狐介には傷1つ着いていなかった

狐介「相手が尾赫で助かったなんであんな硬いんだよ甲赫じゃああるまいしまさかほんとに竜赫なのか？とりあえずT S Cに連れ帰るか」

ウタ「大丈夫か狐介」

狐介「俺がこんなやつに負けると思います？」

ウタ「思わない」フッフ

狐介「とりあえずT S Cに連れていきますか不可解なことが多すぎます」
ウタ「そうだな」

響子「大丈夫狐介怪我とかしてない？」

斉藤「ガッ」

狐介「響子!!離れろ!」

斉藤? 「がアアアアアアア
!!!!!!」

響子「え？キヤーー!!」

緑色の竜に変化した斉藤はそのまま響子に突進した

狐介「間に合ええええ!!!」

やばいこのままじゃ間に合わない『赫者にはなるなよ』ごめん父さん

有馬さん一瞬だけ約束破るよ

狐介「オラアアアア」バチバチバチバチ

狐介が赫者かした右手で思いつきり斉藤を殴り飛ばした

斉藤「がアアアアアア!!!」ビリビリビリ

狐介「大丈夫か響子」

響子「う、うん大丈夫でも右手が」

狐介「気にするな大丈夫だから」

ウタ「なんだあの竜は」

しのぶ「あれドスマツカオじゃん!」

由香「ドスマツカオってモンハンの?」

しのぶ「絶対そうだよ」

ウタ「なんでゲームのモンスターがここに」

狐介「よくわかんないけど今までこの地区で出てきたモンスターよりでかいよ」

ウタ「こうなったらもうお前の竜赫しか倒せな任せたぞ」

しのぶ「竜赫ってなんですか？えっと」

ウタ「ウタだ、竜赫ってのは世界で数百人しかいないあれみたいなモンスターを倒せる唯一の赫子だ竜赫を持たないやつや人間はあいつらの死体を使った武器で戦うがその武器が今手元にならないから今アイツを倒せるのは狐介だけなんだ」

咲姫「狐介君は大丈夫なんですか？」

ウタ「大丈夫だなんてったってあいつは世界最強と言っているほど強いんだからな」

狐介「『ちっ赫者化したせいで右手がビリビリするとりあえずあいつぶつ倒すか』バキッ」

狐介また右手の指を鳴らすと鱗赫が戻り変わりに竜の尻尾のような赫子が出てきた

狐介「お前の力借りるぞタママミツネ」

竜赫少年本領発揮

狐介「お前の力借りるぞタマミツネ!!」

そう言いながら俺はドスマツカオに向けて走り出した

『Guuuuuuuuuuu!!』

狐介「オラッ」

俺はドスマツカオに思いつきり竜赫ぶつける

『guuuuuuu!!』ガッシャーン!!!

狐介「意外と吹っ飛ぶな」

ドスマツカオは、尻尾を使って器用に立ち上がり尻尾の力を使い突進してきた

『GUUUUUUUUUUUUU』

狐介「危な!!」

しのぶ「狐介気をつけるあいっ尻尾の力すごい強いから」

狐介「もつと早く言えよ！」

しのぶ「せめて尻尾を切れたらいいんだけど」

ウタ「わかったちよつと連絡する狐介ちよつと待ってる」

狐介「早くしてくださいね」

こんなふうに話せているが正直結構キツイ何がキツイってあの突進もうガラスほとんど割れたんじゃないか

狐介「めんどくせえなっ!!」ドゴン

『G u a a a a a a』バリーン

俺は向かってきたドスマツカオにタイミングを合わせ思いつきり竜赫をぶつけた

狐介「やっぱりよく飛ぶな」

キヤーー!!!

狐介「まだ逃げてないやついんのかよ」ダッ

『G Y A A A A A A A A』

狐介「何やってんだよ」バゴン

『g u a』

狐介「大丈夫ですか？」

モブ「大丈夫ありがとうございます」

狐介「早く逃げて」

モブ「はい」

狐介「さて打撃だけじゃちよつとキツイかな」

『g u u u u u u u u u i u u u 』

今にも飛びかかかってきそうなのドスマツカオどう攻略しようか考えていたところに?? 「狐介これ使え!!」 シュツ

狐介 「西尾さん」 ザクツ

錦 「マカライト鉱石性の刀だこれならあいつを切れる」

狐 「ありがとうございます」

マカライト鉱石ってなんだろうまあいいやあいつを切ればなんでもいい

バキツ!!!

狐介 「お前ご自慢の尻尾切つてやる」

『G Y A A A A A A A A A 』

狐介 「オラツ!!」

またいつものように突進してきたところに今回はジャンプしてよけ着地際に思いつき尻尾に刀を切りつけたが刀は尻尾にくい込んでしまった

『G Y A A A A A A A A A 』

狐介 「硬つていな!!」 バンツ

俺は刀に向かって思いつき尻尾を叩きつけた

『G Y A A A A A A A A A 』

狐介「とりあえずこれで面倒な攻撃は無くなったな」

『『フリーフリーフリー』』

狐介「なんでもうおつかれか」

『GUAAAAAAAAA』』

狐介「馬鹿の一つ覚えみたいに何度も突っ込んでくんなよ」シュツ

尻尾がないので当然のようにスピードの落ちた突進を避け振り向きざまに刀を一閃させた

バタン

狐介「さすがに首を切ったら動かないよな」

響子「狐介!!!」ギューー

狐介「ど、どうしたんだよ」

響子「怖かった」

狐介「しようがないよなこんな訳分からんやつに襲われたらギョツん?」

咲姫「私も怖かった」

狐介「もう安心だよ」なでなで

しのぶ「狐介えー!」トビコミ

狐介「うわあああ」バタン

しのぶ「怖かった 超怖かった」

狐介「大丈夫、大丈夫だって」などで

絵空「なんでこうも狐介君と関わった人達はキャラ崩壊するんでしょう」

由香「まあみんな無事だったし結果オーライだよ」

錦「おい狐介イチャイチャすんのちよつと後にしてこっちこい」

狐「はい」

ウタ「どうしようねこの死体」

狐介「とりあえずTSCの方で引き取ってもらってそこから研究するって感じですか？」

錦「まあそうなるな」

狐介「あこの刀ありがとうございました」

錦「ああ気にすんなお前用に作った刀だからなこいつ武器にするまでそれ持ってる」

狐介「ありがとうございます」

響子「ねえねえ狐介」

狐「どうした」

響子「今度お礼するって言ったけど今日でいい？」

狐介「いいけどどうした？」

響子「ちよつと来て欲しいところがあつてさ」

狐介「とりあえず月山さんに連絡するわ」

ロトム「もう連絡しといたロト」

狐介「サンキューじゃあ行くか」

錦「おう後片付けは任せろあと一個言うことがある」

狐介「何？」

錦「TSCの高校わかるよな」

狐介「わかるけどそれがどうした？」

錦「その問題児が来月こっち来るから」

狐介「来月つてことは、サンセットステージのあとかありがとう西尾さん気をつけとくよ」

錦「おう楽しんでこいよ」

響子「それじゃあみんなまたね」

少年少女移動中

狐介「ここつてもしかしてさ」

響子「何？」

狐介「響子の家？」

響子「そうだよ」

狐介「((((; 旦那((((((((エエエエ!!」